

執行部の愛情

次の①〜④の中から、北中生全員で達成できるだろうと思うものを選びなさい。

- ① 朝八時の時点で、朝読書を開始する。
- ② 朝の会のあいさつで大きな声を出す。
- ③ 給食の残量をゼロにする。
- ④ 学校にアルミ缶を持つてくる。

正解はありません。あなたが選んだものは、北中全員でやれることをあなたが期待していることで、北中生の可能性を大切にしている表われですからね。集団に期待をかけ、「全員で達成」という願いをもつことは尊いことだと思います。

皆さんは「えっ!」と思うかもしれませんが、私は①から④まで全てについて、「全員で達成することは難しい」と考えています。皆さんを信じていないからではありません。一人一人には事情というものがあるからです。

①については交通事情、体調、アクシデントというものがありますからね。②③については大きな声に抵抗がある人、食の細かい人はいるものです。そういう仲間に強要はできません。④については、参加してほしい気もちはわかりますが、以前書いたように、アルミ缶がない家庭もあるようです。

このように考えると、全員での取り組みを理想としながら、成果を「全員」以外に求める必要があると私は思います。

生徒会新聞「結」を読みました。二段目に「さらにパワーアップした取り組みにするために」と題して書かれた部分から、生徒一人一人が何らかの形で関われるように、生徒会執行部は鉢花の増やし方やメッセージカードを付けようと提案したことがわかります。

「一人でも多くの人が関われるようにするためにはどうしたらよいか」それを考えてくれます。

大切なのは、その意図が全校生徒に伝わることです。プロジェクトf1と「プロジェクトf2」の違いは、鉢の数やメッセージの有り無しではなく、一人でも多くの人が関われるようにという執行部の愛情が込められている点です。それを生徒会新聞を通して、私は見つけました。

しかし、活動に水を差すようで申し訳ありません。やはり私は、「全員」を達成するということは、やはり難しいと思います。集団が大きければ大きいほど、「全員」の達成はどんどん難しくなります。生徒会執行部の皆さん、「全員」ということが達成されなくてもがっかりしないでください。あなたがたたちの取り組んでいる方向は決して間違っていないですし、それをわかってくれる仲間も多くいるはずです。「全員」という言葉にしがみつきすぎず、多くの仲間が協力してくれるようになったことを喜んでほしいと願っています。